

令和元年度 学校評価 まとめ

1 学校教育目標等

基礎力・思考力・実践力をもち、支(さ)え合いの中で躍(や)動して学(ま)び続ける生徒の育成

2 今年度の重点目標

- 1 予習、書くことによる個人思考、対話による集団思考、修正、推敲などの振り返りにより「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを進める。
- 2 いじめ、不登校等に対して、即時即日で関係機関とも連携した組織的な生徒指導を充実するとともに、情報機器の活用等、今日的課題について関係機関も活用し、実感を伴った教育活動を進める。
- 3 生徒・保護者・地域・教職員による四つの力委員会を核として、社会や将来の糸口となる、夢のある講演、やりがいのあるボランティア活動、やすらぎのある安全点検を進め、生徒の自治能力や社会参画する力を育成する。
- 4 校務や会議の効率化、記録簿によりタイムマネジメント意識の向上を図る中で業務改善を進める。

3 学校自己評価結果

(達成状況・・・A:よく達成できた B:達成できた C:やや課題が残る D:改善を要する)

| 分野 | 評価項目 | 達成状況 | 取組状況・改善方策 |
|--------|---|------|--|
| 学習指導 | 「篠中授業スタンダード」に基づいた授業をしている。 | A | ・篠中授業スタンダード(見通しのある予習、書くことによる個人思考、対話による集団思考、修正・推敲・活用による振り返り)による授業改善をめざし、一人一回以上の公開授業、5回の授業研究会を行った。目標、授業の流れなどのより効果的な提示を行い、生徒が見通しを持って取り組める授業改善を進めることができた。 |
| | 生徒同士の活動を取り入れた授業をしている | B | ・全校生徒の87%が授業が分かる。96%が対話、発表があると回答しており、対話がさらに深い学びへとつながるよう、InputからOutput(書く、表現する、修正する)を重視する授業を一層推進する。 |
| | 予習や復習などの家庭学習に取り組ませている | C | ・予習・復習をする生徒は全国的な傾向より高いものの、64%であり、家庭学習習慣の確立を図るために、教科間の連携を図りながら、系統的に予習・復習の課題を出題する。 |
| | 特別支援学級の生徒及び通常学級に在籍している支援を要する生徒について、学期ごとに個別の指導計画を見直し、全職員で共通理解をしながら指導を行っている。 | A | ・特別支援学級生徒の個別の教育支援計画を作成し、一月に一回程度の頻度で特別支援委員会を開催し、PDCAサイクルを進めてきたが、生徒数が多いため、支援策の共通理解と実施が十分でない面がある。特別支援学級生徒、通常学級で支援を要する生徒について、支援策のより重点化する方策を全職員で研修を行い、共通理解・実践を行っていききたい。 |
| 生徒指導 | 学校は、いじめアンケート、教育相談、QUテストを活用して、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解決をしている。 | B | いじめについて、積極的に認知し、早期対応が概ね実施できたが、部活動中のいじめの指導が継続中である。未然防止の内、生徒会や部活部長会による生徒の自発的な活動を活性化させる必要がある。 |
| | 学校は、不登校、問題行動、その他の生徒指導について、指導の方向の明確化と共有を図り、各自の役割を遂行している。 | A | ・ケース会議等を含む組織的指導により、問題行動実人数、不登校は減少傾向にある。一方で、保護者等の相談対応で情報共有が遅れた事例があったので、連絡体制の改善と職員研修を行った。 |
| | 学校は、情報機器取り扱いについて、生徒会・PTA・警察と連携した取り組みを行っている。 | B | ・警察署、弁護士、大学教授など様々な立場の人材を活用し、情報機器の取扱について講演を行うことができた。一方で、SNSでは、肖像権をめぐる問題など新たな課題が出てきており、入学式、参観日など、保護者が集まる時を利用し、啓発をしていきたい。 |
| | 道徳研修を意欲的に行い、道徳の時間の改善に努めている。 | A | ・他者や自己と対話する道徳の時間をローテーション等で指導し、全職員で授業と評価の研究を推進した。また、12月20日に公開授業研究会を実施した。他校からの参加者もあり、一定の成果をあげることができた。本校の授業スタンダードも踏まえつつ、「特別の教科 道徳」について授業研究を継続する。 |
| 家庭地域連携 | 学校は、学校だより・学年だより・学級だより・保健だより・図書だよりなどの発行、ホームページの毎日の更新を通して、保護者・地域への広報活動を積極的に行っている。 | A | ・四つの力委員会を学期に1回以上実施し、学校運営協議会に参画する団体と連携した地域貢献活動・人権啓発活動「人権ミライエ・プロジェクト」を企画し、生徒が積極的に参加した。丹波篠山ふるさと大使による講演会を実施した他、音楽の授業における和楽器、保健体育における薬物乱用に地域人材を活用できた。今後も四つの力委員会に地域人材を導入しながら、イベント的ではなく授業支援で地域人材活用を進める。 |
| | 学校は、学校運営協議会を開催し、学校への意見聴取や環境美化活動・花いっぱい活動を積極的に行っている。 | A | ・ホームページの毎日更新や、学校経営方針啓発チラシの全戸配付など意欲的に広報活動を行い、学校の教育活動をアピールすることができた。 |
| | 学校は、小中連携推進委員会、小中合同研修会、各小学校への出前授業、体験入学、入学説明会などを通して、小中の相互理解に努めている。 | B | ・小中連携については計画通りに実施することができた。特に、合同研修会をまとめた冊子の作成、新入生説明会における体験授業、出前授業は大きな成果をあげることができた。来年度は、新入生説明会・保護者説明会を同日開催し、児童・保護者負担を減らす。 |
| 業務改善 | 学校は、原則週2回のノ一部活動デーを実行したり、部活動計画を毎月生徒・保護者に周知するなど、適切な運営をしている。 | B | ・部活動ガイドラインにそって、週2回(木曜日と土日いずれか)のノ一部活動は、新チーム移行をきっかけに完全実施した。しかし、中体連以外の大大会・大会前のあり方など課題もあり、月平均で部活休養日を設定している。部活動のあり方について、生徒負担軽減の観点からさらに保護者に周知する。 |
| | あなたは、木曜日は定時退庁の日として、18:30までに退庁している。 | B | ・記録簿より退庁の遅い職員に指導を行ったが、特に学期始めの退庁時間が遅い傾向があり、今一度会議の効率化、定時退庁の意識の向上を図っていききたい。生徒指導対応で一部の教員に負担をかけており、問題行動の未然防止をあわせて進めたい。 |

4 学校関係者評価結果

(1)重点目標についての評価

・学力向上、生徒指導、家庭地域連携、業務改善と、課題の柱が明確になっている。
 ・生徒会と学校運営協議会が学校づくりについて議論する「四つの力委員会」で、中間評価や年間評価に関連する項目について、実際の生徒の姿や意見にふれたので評価しやすかった。

(2)総合的な評価(意見・感想)

・10年ほど前の篠山中学校では、非常ベルがならない日がないほど問題行動が発生し、先生方も11時頃まで生徒指導に追われていた。今の篠山中学校は、自信をもって、積極的に生徒の様子を見せていく状況になっているのが伝わってくる。一部生徒の交通マナーで地域からおしかりをうけることがあっても、地域でしっかりあいさつをしている。
 ・街が地域を育てている伝統がある中で、PTAでも様々な価値観が生じてきている。学校が学年3クラス平均になっていくことを考え、学校と地域がより密接にしていく必要がある。何でも先生に押しつけるのはよくない。
 ・生徒アンケート、保護者アンケート「予習・復習をしているか」の肯定的回答率が学年によって差がある。家庭学習習慣を育成するために、学校として統一性のある指導をした方がよいのではないか。また、自主性を引き出していけるように、家庭学習の手順と内容をガイダンスしたり、将来の目標との関係を指導したりしてはどうか。

(3)学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

| 分野 | 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価 |
|---------|--|
| 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート、保護者アンケート「予習・復習をしているか」の肯定的回答率が学年によって差がある。家庭学習習慣を育成するために、学校として統一性をもって指導してほしい。 ・自主性を引き出していけるような取組が重要である。どの程度自主勉強ができればOKになるのか目標をもたせる。家庭学習の手順と内容を丁寧にガイダンスする。将来のビジョンと家庭学習習慣の関係を入学当初に指導しておくなどの取組を進めてはどうか。 |
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく学校に来ることができている生徒の割合が高い。こういう学校になっていっているのは素晴らしいと思う。先生方がきめ細かく取り組んでいる成果だと思う。 ・10年ほど前の篠山中学校では、非常ベルがならない日がないほど問題行動が発生し、先生方も11時頃まで生徒指導に追われていた。今の篠山中学校は、自信をもって、積極的に生徒の様子を見せていく状況になっているのが伝わってくる。一部生徒の交通マナーで地域からおしかりをうけることがあっても、地域でしっかりあいさつをしている。 |
| 家庭・地域連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・中学生と大人が協議する「四つの力委員会」は、普段、地域の大人と話すことがない中学生にとっても、大人にとってもよい機会になっている。「四つの力委員会」で協議したことが、自治会長を通じて地域に広がっていけばよい。 ・地域の方を授業に活用していくことを進めていく。学校の中でゆとりをもって取り組めるように、特別な行事をつくるのではなく、授業の中で支援が得られる人材を活用する。そのために、学校運営協議会の中で、具体的にどのような内容が授業で活用できるか考えていく。 ・街が地域を育てている伝統がある中で、PTAでも様々な価値観が生じてきている。学校が学年3クラス平均になっていくことを考え、学校と地域がより密接にしていく必要がある。何でも先生に押しつけるのはよくない。 |
| 業務改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数の減少に伴う教員数の減少により、部活動の指導者数不足が起こってくる。学校運営協議会などで指導者をさがすなど、学校の支援の展望をつくることも必要だと思う。 |